

2009.3月号

平成21年3月30日発行

発行元 NPO法人陽だまり
発行元住所 〒739-0043
東広島市西条西本町27-37 高貴ビル201
電話 082-422-4115

主な記事

有料サービス・福祉有償運送サービスの展望
会員の広場
代表「老いる」ということ
事務局だより

この一年を振り返りながら、NPO法人としての陽だまりの方向性を整理しました。

有料サービス

1. 交流会

3月10日(火)、活動者交流会を開催し、出席者19人が昼食をとりながら意見交換を行いました。普段お互いに顔を合わす機会の少ない活動者さんですが、この日は和やかな雰囲気の中で親睦を深めることができました。また、活動者さんからは、定期的に事務局スタッフが利用者さんを訪ねてサービスの満足度を聞いてほしい、このような交流会を年2、3回開いてほしい、などといった意見が寄せられ、事務局としても充実したひと時となりました。

みなさんの意見を参考にしながら、今後もよりよい有料サービスづくりに努力していきたいと思えます。

1. 今後の展望

ここ数年、活動者さんの人数に対してご依頼の方が多く、十分にご要望に応えられないということ

が続いていました。そこで、21年度は各地で説明会を開くなど、広く陽だまりを知ってもらう活動に力を入れ、活動の担い手獲得に努めていきたいと思えます。

もし、活動できそうな方をご存じでしたら、ぜひご紹介ください。

福祉有償運送サービス

1. 安全運転講習会

2月8日(日)、JAF 岩本英之氏を講師にお招きし、スポーツ交流センターおりづるにて安全運転講習会を開催しました。前半は、どんな状況でもっとも事故が起こりやすいか、そして事故を回避するにはどのような予測運転が必要かを学習しました。後半は、実際に車両を使って点検の実習を行いました。今後も研修を重ね、安全なサービスの提供に努めてまいります。

2. 今後の展望

21年度は、新たに運転者となる人がスムーズに資格が取得できるように、「国土交通大臣認定講習」を行う予定です。陽だまりは一年前に実施しましたが、この講習は実施団体が少ないため、今も問い合わせをいただく状況です。そこで、次回も外部の受講生を受け入れ、運転者育成を通して地域に貢献したいと考えています。

最後に

「有料サービス」「福祉有償運送サービス」は陽だまりの根幹であり、このサービスの充実こそが陽だまりの存在意義であると、私たちは確信しています。



す。今後もこの二つのサービスを中心に、地域に貢献できるNPOとしてがんばっていきます。

会員の広場

里山 上野 邦彦

早春の朝です。山を登る途中の崖下で小鈴を振るような幽かな音がしました。耳を寄せると銀色の霜柱の林が陽を浴びて次々に崩れ落ちる音でした。山の田圃には未だ薄氷が張っていて、早春の蛙たちが鳴き交わしています。お母さんがメダカの行列を見付けました。

「可愛いわね」

「ほんと瞳がキラキラしてるよ」

お兄ちゃんがポリバケツに田圃の水を汲んで、虫眼鏡で見せてくれました。朝日を浴びて背中銀線が輝いていました。

お父さんが奥の溜池でとても大きな黒い貝を見付けました。昔の先祖たちは海に棲んでいたそうですが、なぜこんな山奥まで来たのかな。名前はドブガイ、もっとよい名はなかったの？

夜です。手作りお弁当を楽しく頂いてから、めいめい寝袋に潜って星を眺めることにしました。北から南に流れる銀河の端にオリオン、「そのすぐ横には一等星のシリウス」と、お兄ちゃんの声です。お父さんはワンカップで寝ています。みんな生きものと仲良し、幸せな家族です。

南アフリカサービス事情

市川 マヤ

南アフリカでは、物事が一回で済むことはまずない。台所のシンクを交換した友人の話。一日目。約束した日に一日中待っていたが、とうとう業者は来なかった。二日目。頼んでいたものと違う種類を持ってきた。三日目。作業時間が足りず、その日で終わらなかった。万事がこの調子なので、私も諦めて待つことに慣れた。▼昨年末、久しぶりに日本に帰って、日本のレベルの高いサービスに感激した。日本人の勤勉さ、細やかさが、日本を経済大国に押し上げたのだと実感した。しかし、道行く人々の疲れた表情を見てみると、一体私たちは経済大国にふさわしい生活をしているのだろうかと思問が沸く。▼南アフリカは想像もつかない困難な問題を抱えているが、人々は明るかった。日本人、そんなに完璧じゃなくてもいいんじゃない？ 許し、待つ。案外そんなところに幸せの秘訣が隠されているのでは？ほころびかけた桜の蕾を見ながら、ふと思った。

「老いる」ということ

代表 廣瀬 長子

新聞やテレビで高齢者の事件、事故のニュースが報道されない日はない。関東の老人施設の火事で10人もの尊い命が犠牲になったというニュースは記憶に新しいところである。何ともいいようのない悲しい痛ましい事故であった。

私自身も高齢者の仲間入りをするようになって「老いる」とはこういうことなのか、と不安や寂しさを日々実感することが多くなった。老年期の最も重要な点は喪失にあるといわれている。社会的には高齢者のほとんどは職を失い、それから得る収入を失う。また仕事を通しての社会との接触の大部分を失う。家庭の中では世帯主、あるいは主婦としての役割を失う。やがては最も大切な配偶者を失うという重大な喪失感を遅かれ早かれ経験することになる。このように高齢者は得るものは少なく、かけがえのない大切な物を次々と失っていくのである。

個人差はあるが身体的機能も低下する。耳が聞こえにくくなり目も見えにくくなる。足が思うように動かなくなる。新しい事がすぐに覚えにくくなる。そして病気がちになる。

心の面では我がままや頑固になったり、ひがみっぽくなったりする。新しい事に挑戦したくなくなり、昔の習慣や考え方にこだわりがちになるなど負の面が多いと思われる。

しかし私たち高齢者は、たとえ物忘れがひどくなって、動きが鈍くなっても長い人生を生き抜いてきたという自負があり、経験や体験がある。そして一生懸命自分の能力一杯に生きてきたと思っている。自分の人生に程度の差こそあれ満足と誇りを持っている。この誇りを無視されたり、人生を否定されたり、また心ない言葉をかけられた時、心は大きく傷つく。

高齢社会を迎えた今、私たち高齢者は甘えてばかりではいられない。高齢社会を支えるのは私たち高齢者の活躍にもかかっている。そのためには、高齢者1人ひとりが生きがいを持つことが大きな課題となる。微力であっても体が動く限り、社会や地域にお役に立ちたいと思っている。長い人生を生きてきた豊かな経験や知識、技術を生かしながら社会と係わりを持つことを望んでいる。健康づくりに気を配りながら、いただいた命を大切に、そして多くの人たちから支えてもらった優しさを忘れずに、これからの人生を歩んでいけたらどんなに幸せか、日々思っている。



事務局だより

訪問介護

今年度もあと僅かとなりました。この1年を振り返ってみました。

- ①地域包括支援センターからのご依頼が増え続け、陽だまりの利用者全体の半数を占めるようになりました。陽だまりのヘルパーは、地域包括支援センターから高い評価を得ています。
- ②今年度は研修も計画通りに実施でき、スタッフの資質向上に努めることができました。
- ③介護福祉士に挑戦したヘルパーが多く、陽だまりヘルパー14人中8人が介護福祉士となりました。
- ④2008.12.3.に行われた「障害者フォーラム2008」に、ご自分の経験を発表した利用者さんの担当ヘルパーとして、山本陽子がリレートークに参加しました。

以上、また少し前進できた年ではありましたが、一方でヘルパーの募集をしても一人も応募がないという経験を初めてしました。低賃金など労働条件の問題は新聞、テレビなどで言われているとおりです。その改善を目的に4月から介護報酬がありますが、訪問介護の場合、「事業所加算」をとると利用者の負担が上がるという仕組みになっており、事業所としては悩ましい限りです。

事業所加算とは、国の定めた体制要件、人材要件を満たした事業所に対して、所定単位数を10～20%加算するものです。利用者が1か月に利用できる上限の単位数は変わらないので、利用者の自己負担額が増すばかりでなく、これまで利用していたサービスが上限を超えて利用できなくなるということも心配されています。



居宅介護支援（ケアマネジャー）

1年間お休みしましたが、4月1日から再開する運びとなりました。スタッフも1名から2名に増員し、さらに充実したサービスをお届けする予定です。担当スタッフは市川マヤと佐々木政美です。どうぞ、よろしく願いたします。

4月よりケアマネ業務も担当することになりました佐々木です。訪問介護と合わせて担当しますので、心配ごとやサービスに対する問い合わせ等ありましたら、遠慮なく声をかけてください。



総会のお知らせ

すでにご案内しているとおり、平成21年度の総会を開催いたします。総会終了後には茶話会を予定しています。みなさまの出席をお待ちしています。

日にち：5月9日（土）

時間：10:00～12:00

場所：東広島市民文化センター（サンスクエア）
研修室2

- ※ 欠席される方は委任状をお願いいたします。
- ※ 当日の交通手段にお困りの方は事務所へご相談ください。